

## ヘルニアセンターを開設しました

---

からだの中のある組織が、あるべき場所から出てきてしまった状態を「ヘルニア」と言います。背骨の間の軟骨が変性し、組織の一部が飛び出す「椎間板ヘルニア」や、おなかの中にある腹膜や腸がそけい部の筋膜の間から出てくる「そけいヘルニア」などがあります。そけいヘルニアはいわゆる「脱腸」としても知られています。成人のそけいヘルニア、大腿ヘルニアなどの診療を専門に行い、安全で確実な治療を提供することを目的に2023年6月より「ヘルニアセンター」を開設しました。

そけいヘルニアの症状としては、そけい部のふくらみや痛みなどがあり、立ったときやおなかに力を入れたときにふくらみを感じ、押さえたり横になったりすると引っ込むことが特徴です。

図1. そけいヘルニアのイメージ図

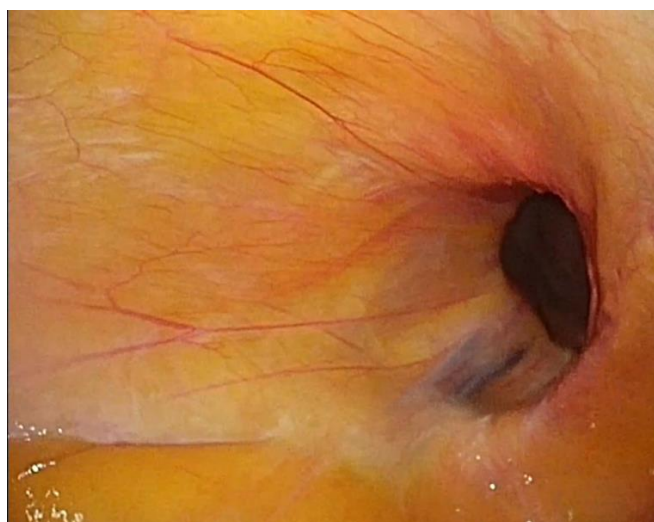


株式会社メディコンホームページより転載

ふくらみが硬く痛みが発生し、引っ込まなくなる場合には、腸管の血流が悪くなり壊死することがあります。嵌頓(かんとん)と呼ばれる状態で、緊急の治療が必要となります。

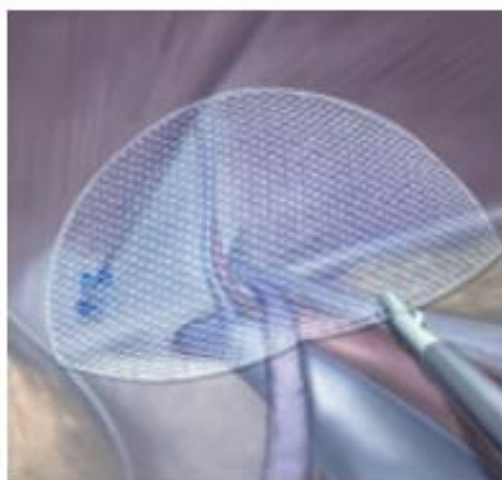
そけいヘルニアの治療には腸管が脱出する腹壁の穴(ヘルニア門)の閉鎖が必要となります。

図 2. おなかの中から見たヘルニア門の様子



自然に治ることはなく、お薬でも治すことができないため、手術が必要となります。手術法としては①そけい部切開法、②腹腔鏡下そけいヘルニア修復術の2種類があります。そけい部切開法はヘルニアのふくらんでいる部分を5cmほど切開し、腹壁の穴をメッシュによって補強します。腹腔鏡下そけいヘルニア修復術はポートと呼ばれる筒を腹壁から3本挿入し、おなかの中に炭酸ガスを入れ、おなかの中から治療します。モニターでみながら、鉗子と呼ばれる手術器具を使用して、おなかの内側からメッシュをあててヘルニア門を補強します。

図 3. メッシュによるヘルニア門の補強



株式会社メディコンホームページより転載

それぞれの方法に特徴があるため、担当医と相談しながら治療法を決定します。手術の際にはヘルニア手術の専門病棟に入院となり、経験豊富なスタッフが対応を行います。

ヘルニア専門外来として毎週月曜午後、火曜午後に診察枠を開設しております。そのほか、外科一般外来(月～金曜午前)でも診察を行っているため、患者さんのご都合に合わせて受診していただくことができます。病院のホームページにヘルニアセンターのページを新たに作成しましたのでぜひご覧ください。そけいヘルニアでお困りの方がいらっしゃいましたら、かかりつけの先生に相談していただくか、当センターを受診していただければと思います。

担当窓口：桐生厚生総合病院 外科外来 TEL：0277-44-7171（代表）

対応時間： 9：00～17：00（土、日、祝、年末年始を除く）

【外科診療部長 木村 明春】

